



ごあんぜんに

Vol. 47

四 国 地 方 整 備 局
港 湾 空 港 部 室
工 事 安 全 推 進 室

R6. 6. 28

巻頭ご挨拶

温暖化の影響で、港湾の建設現場を取り巻く作業環境は間違いなく厳しくなっていますので、熱中症対策をしっかりと願います。対策方法は、空調服の導入などで多様な方法が充実して来ておりますので積極的な導入を重ねて願います。またキレイでオシャレな作業服など、多様な方が入職しやすい新4Kの希望・カッコイイの環境になってきていると思いますがこちらの取り組みもよろしく願います。そして、無事故・無災害で多様な方が自分も働いてみたいと思う現場にしていきたいと思います。

近年の港湾空港関係の死傷事故は、長期的には減少しておりますが、令和4年度、5年度と2年連続で死傷者数が増加しており、死亡事故は4年連続発生している状況です。四国地整(直轄工事)では、平成14年より死亡事故ゼロを継続しておりますが、令和5年度は夜間・休日に事故やヒヤリ・ハット事案が発生しておりますので、油断や不注意が生じやすい作業について基本的な作業手順を守って、事故のない現場となりますようお願いいたします。

工事に携わるすべての人が主役の現場づくりを、工事に携わるすべての人で実現し、安全な現場づくりにつなげていきたいと思います。ご安全に。

工事安全推進室長 堀家 正

令和6年度 第1回 工事安全強化期間

(令和6年 7月1日 ~ 7月15日)

安全強化期間 スローガン



無事故無災害は一流の証

四国地方整備局の港湾空港関係直轄工事においては、令和6年7月1日~7月15日を令和6年度第1回工事安全強化期間と定め、スローガン(標語)を用いたポスター掲示やワッペン着用、稼働中現場における安全パトロール等の取り組みを実施予定です。

今回のスローガンは、幅広い港湾空港関係職員から多数の応募がありました。その中から本局 事務職員の栗木さんの作品を採用させていただきました。ご多忙の中、応募いただいた方々はありがとうございました。

○港湾・空港関係直轄工事(全国)における死傷災害発生状況

単位(人)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
死亡者数	0	1	2	1	1
負傷者数(1)	12 (1)	15	7	8 (1)	15 (1)
負傷者数(2)	20 (3)	16 (2)	18 (1)	19	22 (3)
計	32 (4)	32 (2)	27 (1)	28 (1)	38 (4)

全国における合計件数。():四国における発生件数で内数。負傷者数(1)…休業4日以上、負傷者数(2)…休業4日未満
出典 国土交通省港湾局技術企画課調べ

昨年度は過去5年間で最も多い死傷災害発生件数となっており、一昨年度と比べると10件も増加しています。また死亡者は、令和2年度から4年連続で発生しているという状況です。

令和5年度の死亡事故は、波浪警報発令中に防波堤で作業していた作業員が越波により海中転落したことにより発生しています。

○熱中症について

令和5年（2023年）における職場での熱中症による死亡者及び休業4日以上の上業務上疾病者の数は1,045人で、その内、死亡者は28人となっています（数値は厚生労働省速報値）。なお建設業においては、死傷者数（死亡者数と休業4日以上の上業務上疾病者数を加えた数）が202人で、その内、死亡者は4人となっています。

死亡災害全体の概要として、総数28件の内、発症時・緊急時の措置の確認・周知していたことを確認できなかった事例が25件、暑さ指数（WBGT）の把握を確認できなかった事例が24件ありました。事前の安全教育や現場での情報収集を充実させていただくとともに、万が一、熱中症と疑われる症状の作業員が発覚した場合は、決して一人では待機させないようご注意ください。

このように熱中症になると、死亡に至る場合や重症化して後遺障害が残ることがありますので、正しい理解で、正しく対応しましょう。

<熱中症が疑われた場合の現場での応急処置>

① 涼しい環境への避難

暑い現場から涼しい日陰か、冷房が効いている部屋などへ移す。

② 脱衣と冷却

衣服を脱がせて体から熱の放散を助ける。露出させた皮膚・体に水をかけ、うちわ、扇風機の風に当てる。寝かせた状態では下肢を持ち上げて下肢に分布する血液をより多く体の“内部”に集める。

③ 水分・塩分の摂取

冷たい麦茶やジュース、氷水などを与える。また自分で摂取可能かどうかを確認する。

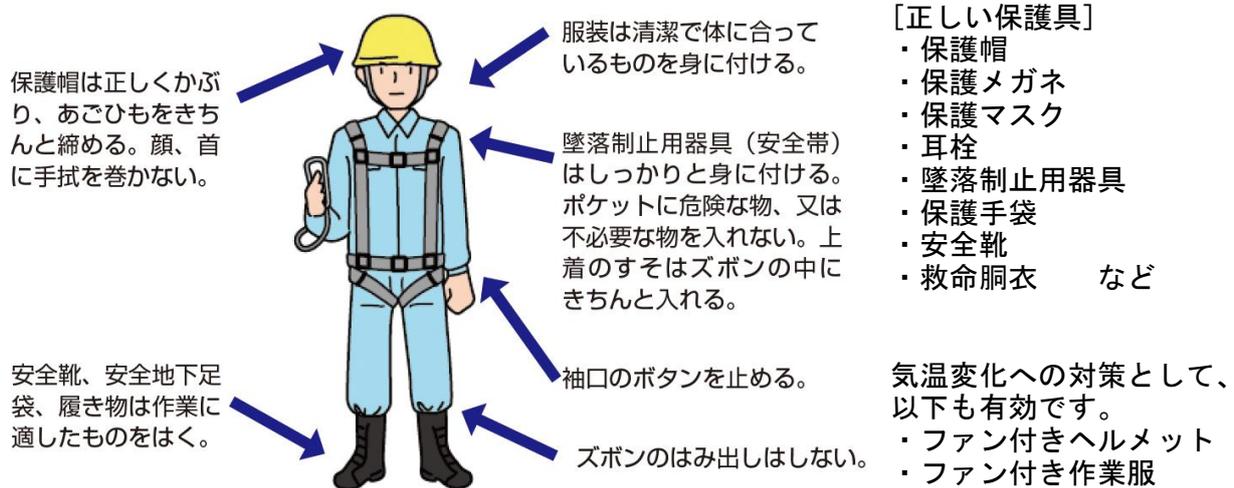
④ 医療機関へ搬送

意識がおかしい場合は、医療機関へ搬送すること。また自力で水分の摂取ができない場合も、点滴で補う必要があるため、医療機関に搬送することが最優先の対処方法となる。

出典 厚生労働省「職場における熱中症予防対策マニュアル」より

○正しい服装について

現場作業を行うにあたり、正しい服装はできていますか？正しい服装をすることで事故や災害から身を守る可能性が高くなるため、工事安全の第一歩とも言われています。朝礼時だけでなく、各休憩後にも作業員同士でチェックを行い、常に正しい服装で作業に取りかかるようにしましょう。



出典 厚生労働省「建設業に従事する外国人労働者向け教材」より

<あとがき>

昨年度は5月～10月と長期間にわたって「真夏日（30℃以上）」及び「猛暑日（35℃以上）」が観測されました。今年度も引き続き、地球温暖化やエルニーニョ現象の影響で気温の高い日が続くことが見込まれるため、各作業員の体調や作業環境の管理を徹底し、熱中症に気をつけながら、無事故無災害で工事・業務が終了するよう、引き続きご協力をよろしくお願いいたします。

